

2008年12月30日、リーマン・ショックという世界的な金融危機により全世界に不況の波が押し寄せました。東京の日比谷公園は派遣切りにより突然、職と住居を失った人々であふれていました。急きよテント張りの「年越し派遣村」が設立され、ボランティア

団体からなる有志が甲府カトリック教会を会場にして炊き出しを実施しました。活動目標に「地域における人的つながりを通して、何人も社会において孤立せず、健康で文化的な最低限の生活を営むことのできる社会の実現に寄与する」を掲げて、09年11月に4団体と20人のボランティアが中心となり、現在の「NPO法人やまなしライフサポート」を立ち上げました。

10年1月から主要な活動の一つとして、毎週木曜に「炊き出し」を開始し、そのお知らせのチラシを持ってパトロールも始めました。教会の広い講堂に机と椅子がコの字型に並べられ、ボランティアの方々に料理され、それぞれのお盆にセットされたごちそうを黙々と食べていました。参加者は毎回50〜60人で、

時標

イアによる炊き出しと福祉への手続きが行われました。

山梨県においても甲府駅周辺を中心に、職と住居を失ったホームレスの数が目立ち始めました。寒さと不安の中にある方々にとりあえず温かいみそ汁とおにぎりを食べていただくこと、労働組合と宗教

貧困に目向け支え合う社会に

ホームレスと思われる方も数人おりました。この年、厚労省は目視による調査として、ホームレスの数を山梨県内に36人、全国1万3124人と発表しました。回を重ねるごとに、炊き出し会場の雰囲気は大きく変わりました。料理担当がその日「野菜は少なめに」と声を掛け合える居場所の下に足りませんでした。「何々橋の下に足らない方がいます」「隣町の公園に困っている友達がいます」などの優しい情報提供も増え、弁当配達を手伝ってくれる方も出始めました。16年までに県内の18の橋と10の公園にお弁当を届けましたが、最初は拒否され追い返されることもありましたが、

かき、何回か足を運び話し掛けるうちに、病気で困っていること、橋からの立ち退き命令におびえていること、缶や段ボール、金属ゴミの収集が禁止になり警察に捕まったこと。弁当配布を通して彼らから知らされた現実は想像以上に厳しいものでした。さらに悲しいことは、家族や地域社会として国の福祉制度から全く孤立しているという共通点でした。



中山 八十司
やまなしライフサポート理事長

目視では浮かび上がらない貧困の実態に目を向け、身近で本当は苦しんでいる弱者を自己責任と片付けることなく、共につながり支え合える社会を目指したい。

ライフサポートが現在、最も力を注いでいる活動は、甲府市他4市から委託を受けている生活困窮者自立支援制度

なかやま・やそじさん

1940年生まれ、笛吹市在住。青山学院大卒。東京都で6年、山梨県で37年間、高校の英語教員を務めた。NPO法人やまなしライフサポート理事長。いのちを守る山梨県民運動推進会議代表。